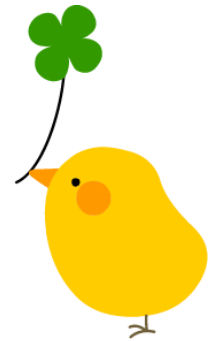


# 実践者としての感覚を 言葉にすること

文京区立本駒込幼稚園  
今村久美子



# 私が論文を書いた過程

- ・保育実践者の身分のまま休職して修士課程に進学
- ・テーマ：  
「特別な支援を必要とする子どもの仲間関係」
- ・方法： 幼稚園における参与観察  
個人の事例分析
- ・修士論文をもとに学術誌へ投稿

# 論文を書く上で 特に重視したこと

1. 保育実践現場で観察を行う  
際の倫理的配慮
2. 自分の考えをどのように  
“伝わる言葉”にしていくか

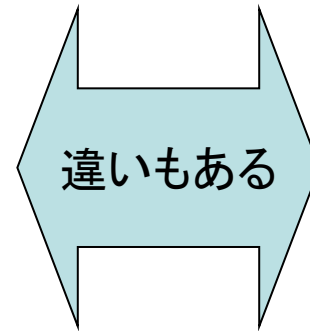
# 1. 保育実践現場で観察を行う 際の倫理的配慮

- 了承を得られそうな観察対象園、観察対象児の選定
- 園長、教諭、保護者に、書面を使った丁寧な説明をし、承諾書を書いていただく
- 観察の際の幼児への配慮
- 教諭や保護者との信頼関係の構築
- 相手にとってプラスとなるフィードバックの工夫

## 2. 自分の考えをどのように “伝わる言葉”にしていくか

### 園内や区内などでの実践的な研究

- 実践現場で使う、意義が感覚的に共有されている、情緒的な言葉を使うことが多い。
- 具体的な子どもの姿をもとにした事例研究が主になる。
- 実践の改善に生かされる、具体的な内容の分析や考察を行う。



研究論文

# 研究論文を書く過程で 目からウロコだったこと5つ ～自分の考えを“伝わる言葉”にするために～

## ①一つ一つの言葉の意義を吟味する

・一つ一つの言葉の意義を深く吟味して使う

→「仲間」「友達」「仲良くなる」「親しみをもつ」「楽しさを共有する」「イメージを共有する」などということを、どのように定義するか。

## ② 先行研究を読み使う

- 先行研究は、研究の宝庫。自分の研究に関連する先行研究をたくさん読む。
  - 先行研究と比較しながら、自分の研究の独自性を明確にする。
  - 先行研究で明らかになっていることと、自分の研究を関連づける。
- 自分の研究のキーワード「特別な支援を必要とする子ども」「仲間関係」などに関連する先行研究を読む。

### ③自分の研究に合った 分析の方法を見出し使う

- 先行研究で使われている分析の方法を参考にする。
  - 自分の研究の目的や内容に合わせて分析の枠組みを作り直す。
  - 誰もが納得するような考察に繋がる分析を行う。必要に応じて、分析の結果を数値でも表す。
- 先行研究で使われていた「相互作用の分類カテゴリー」を参考に、研究の内容に合わせた分類カテゴリーを作り直し、利用。



## ④ 既存の理論と関連付けながら、 分析の結果を考察する

- 自分の言いたいことや感覚と合う理論を探す。
  - 理論と関連付けながら、自分の言いたいことを言葉にしていく。
- 哲学的な「身体」の視点で人との関わりを捉える理論が感覚的にぴったりしたので、使用。

## ⑤対話をすることで 論文の質を高めていく

- 指導教授、同期の仲間との日常的な指導や対話からの学び。
- 大学院の様々な専門分野の先生方からの研究報告会などでの質疑による学び。
- 論文投稿において査読者との対話による学び。
- 研究協力者や職場の先生方に報告し感想を伝えてもらうことでの学び。

## 研究論文を書いたことで…

- 子どもや保育を今までとは違う角度から見ることができるようになった。
- 自分の考えを組み立てたり表現して伝えたりする新たな手段を手に入れることができた。
- たくさんの先行研究や理論などに触れて、視野が広がり、子どもや保育について新たな関心や疑問がもてるようになった。

ご清聴ありがとうございました

